

第2期

令和8年度入学

宮城大学大学院事業構想学研究科（博士前期課程）

一般選抜・特別選抜＜社会人・外国人留学生＞

論述専門科目

【出題意図】

事業構想に関する研究を行うに当たって求められる、資料の読解能力、要約能力、根拠に基づく論理的な思考能力について問う。また、参考文献を自らの研究に応用、展開する能力について問う。

問1 本文の内容を、伴走支援、魅力ある雇用の不足、産業構造の変化、働き方の変革、価値創出型経営について整理し、600字程度で要約しなさい。

【解答例】

伴走支援とは、企業経営者と外部支援者が信頼関係のもとで対話を行い、経営者が本質的な経営課題に気づき、意欲を高めて会社の自己変革などに取り組むことにより、組織が本来持っている潜在的な力を発揮させる一連の営みのプロセスであり、経営者と支援者の双方向のやり取り、相互作用である。その核心は、第一に対話と傾聴、第二に課題設定力、第三に自己変革と自走にある。つまり、他者への依存を促すものではなく、経営者が本来持っている「経営の力」を発揮して自立自走していくプロセスを支えるものである。

地方の人口減少の背景には「魅力ある雇用の不足」があり、中小企業の成長と雇用創出が重要である。そこで、伴走支援により稼ぐ力を高めれば、若者や子育て世代の定着につながり、地方再生や少子化対策にも寄与する。従来の下請依存型の産業構造は時代に合わず、価値創出型経営への転換が不可欠である。

中小企業は自社ブランドや独自性を高め、大企業とも対等なパートナーシップを築くことが求められる。受け身の働き方では社員の力は発揮されず、低賃金競争に陥りやすい。社員が自律的に能力を活かし高付加価値を生み出すことで、賃金や働きがい向上し、職場環境の改善にもつながる。

実際に下請依存から特注品や直販型モデルへ転換した企業は、利益率や社員の意欲を高めている。そして、若手経営者を中心に、理念を共有し価値創出型経営を実践する動きが広がっている。(596字)

問2 あなたが本学大学院で取り組もうとしている研究について述べ、さらに、本文で筆者が主張する価値創出型産業構造の転換との関わりについて考察しなさい。

【解答のポイント】

人口減少による「地方消滅」問題の解決には、地方中小企業に社会課題や顧客ニーズに応える価

第2期

値創出型経営へ移行することが求められるとする筆者の主張を踏まえて、受験者が取り組もうとしている研究と価値創出型産業構造の転換との関係について適切な考察がなされているか。また、それを踏まえ、研究や学びに具体的にどう活かせるかが論理的に述べられているか。